再生〝みなまた〟への飽くなき取り組み。

このような歩みをもつ水俣に、今、新しい流れが起きようとしている。真剣に町のことを思い、それぞれのおかれた立場でまちづくりのきっかけをつかもうとしている多くの人たちがいる。そして動きがある。今回の地域づくりルポは、再生〝みなまた〟の可能性をのぞいてみた。

花と緑のまちづくり――水俣市

「花と緑に象徴される快適で美しいまちづくりをしていきたい。――この町に住む青年の言葉には実感がこもっている。明治以降、企業誘致による都市形成、高度成長、公害の発生、構造不況、高齢化現象といった様々な社会変動を経験してきている水俣。いわば日本社会の縮図とさえ見ることができる。

〝水〟にこだわるマチづくりを、商店街活性化の核として。

市街地の商店街は今、落ち込みがひどいという。

「今、私たちはなんとかいいかもしれませんが、いつまでもこのままだと、もう子供たちはここから出て行くでしょうね。」

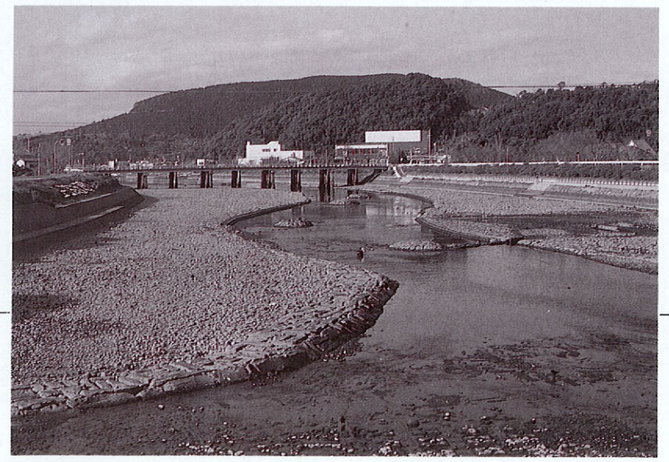
市商工会議所青年部のリーダーでもある宮崎正吾さんも必死だ。今、自分たちがやらなければ――そういう危機感もあるのだろうか、中心街にある三つの町の約百店舗の店主たちが自分たちの街づくりを議論しはじめ、実際青写真にのっとり動きだした店もあるという。

「大型店舗との共存共栄を考えていかなければなりません。そのために商店街の持色づけが大きな課題です」と言う宮崎さんたちにひとつのはずみとなったのが、国（中小企業庁）が提唱する〝コミュニティーマート構想モデル事業〟の実施地域として指定されたこと。そしてこの街のロケーションとして、市街地を流れる水俣川や、土蔵に白壁、青ギリの並木など昔ながらの面影がたたずむ街並みが残っていることも心強い。

「街に水路をつくり子供たちが遊べるなど、水俣の字のとおり〝水〟にこだわるマチづくりをしていきたい。山あり、海あり、川ありとここは環境抜群だから。」

――宮崎さんは、水俣の地域づくりの一つの核になるように、商店街の活性化をぜひ成功させたいとの気持ちでいっぱいだ。

かけ声だけに終わりがちな〝商店街の活性化〟も、宮崎さんたちの熱い思いが、国や県を動かし、着実な動きをみせはじめてきている。



市民パワーで、中尾山をコスモスの花、いっぱいに。

水俣〝花と緑のまちづくり〟にまさに象徴的な動きをしているグループがある。〝みなまた花の会〟の二百五十人の仲間たちである。今年で五年目、市街地の東南に位置する中尾山にコスモス畑をつくる運動を続けている。市民の心をひとつにしたい、と当時若いメンバーたちが話していたのがきっかけで、それまで荒地だったところに見事なコスモス園が広がっている。たねまきから苗植え、草採りと市民に呼びかけたところ、今では一万五千人もの人たちが協力してくれているという。まさに市民パワーのまちづくりだ。

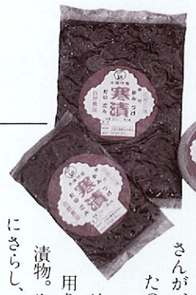
「花と緑のまちづくりを支えるのはここに住む人たち。できることからやっていきたい。そして広げていきたい。季節の花がどこにでも見られるようになればいいですね。」

メンバーの一人、松本博幸さんはひかえめに語ってくれた。中尾山のコスモスだけでなく、湯の児の桜まつりなどにもいろんなグループといっしょになって取り組んでいる。

ここで何か自分たちにできることはないか、との強い思いが、今、市民運動として広がり、花と緑のアピールもここ水俣で確かなものとして根づきつつある。

再生水俣の大きなポイントの一つに、ヘドロ処理事業により創出される五十八ヘクタールの埋立地の活用がある。ここ水俣だからこそ〝環境〟をテーマにしたイベントをはじめ、さまざまなアピールもできるのではないだろうか。海辺のまちづくりを目指す〝マリンタウンプロジェクト構想〟も策定中。今、市民一体となった期待が高まっている。

水俣の名物づくりに、一役。万感の思いが込もる〝寒漬〟。



「水俣の人にとって水俣病の問題は確かに重いんです。きちんと解決しなければならない問題ですが、また一方、別な意味でここをなんとかしなければ…と誰もが思っているんではないでしょうか」

市農協婦人部長島本トミ子さんが、〝寒漬〟に挑戦したのもそういう思いから。寒漬――この地方で古くから愛用されている大根の漬物。生大根を冬の寒風にさらし、塩づけにして、再び寒風にさらして加工することからこう呼ばれている。

試作をはじめたのが五十八年、加工所ができ本格的に取り組んだのが翌年のこと。島本さんをはじめ、加工所に出入りする十数人のメンバーの、それこそ手弁当での活躍が実を結び、その見かけによらず独特の風味は、この二～三年のうち、県内はもちろん全国へも広がっている。

「そりゃ大変でしたよ。最初は赤字覚悟。でもとにかくやってみよう。やらなくちゃと。今思うと私も肝っ玉のふとかですなあ。」

島本さんは豪快に笑いとばすが、〝水俣〟をもう一つ有名にしよう、そして地元の大根生産者も喜んでくれるなら、とまさに血と汗の結晶。微笑ましいというよりその迫力に負けそうである。これこそ地域おこしの真の姿ではなかろうか。ぜひ万感の思いを込めてご賞味あれ。

水俣ならではの、ここだけのイベント紹介。

- **桜まつり**（四月二日・三日）
- **水俣橋の鯉のぼり**（四月中旬～五月上旬）
- **湯の児ウィンドサーフィン大会**（六月の第一日曜日）

- **恋龍祭～みなと祭り～**（七月末）
- **競り舟大会**（七月末）
- **寒川水源のソーメン流し**（六月末～八月いっぱい）
- **中尾山コスモスまつり**（九月末か十月はじめの日曜日）